

# 平成29年産 コメ通信

第5号（平成29年6月27日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課  
（電話0186-62-1835）

## 的確な中干しで茎の充実を！

### 1 生育状況と気象経過

#### 【生育状況】

6月26日現在の管内水稻定  
点調査ほ（9地点、品種あきた  
こまち）の生育は、草丈は  
短く、茎数が少なく、葉数は  
やや遅れており、葉色は淡い  
状況となっています。

本年は田植え後の気象の影響により、依然として茎数のほ場間差が大きくなっています。

#### 定点調査結果（6月26日）

	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉数(葉)	葉色
本年	35.4	429	8.7	41.5
平年	39.8	528	8.9	44.6
前年	42.9	442	9.0	43.4
平年比較	89%	81%	-0.2	93%
前年比較	83%	97%	-0.3	96%

※平年は過去10力年の平均値

※葉色はSPAD-502で測定した値

#### 【気象経過（6月）】

6月前半の気温は、  
平年より低く推移し、  
1半旬と5半旬の日気  
温差は小さくなっています。

日照時間は、6月上旬に平年より少なくなりましたが、中旬は平年より多くなりました。

降水量は、6月に入り平年より多くなっています。

6月21日に仙台管区  
気象台が発表した気象  
情報によると、東北北部は、平年より7日遅い6月21日ごろに梅雨入りしたと見られています。

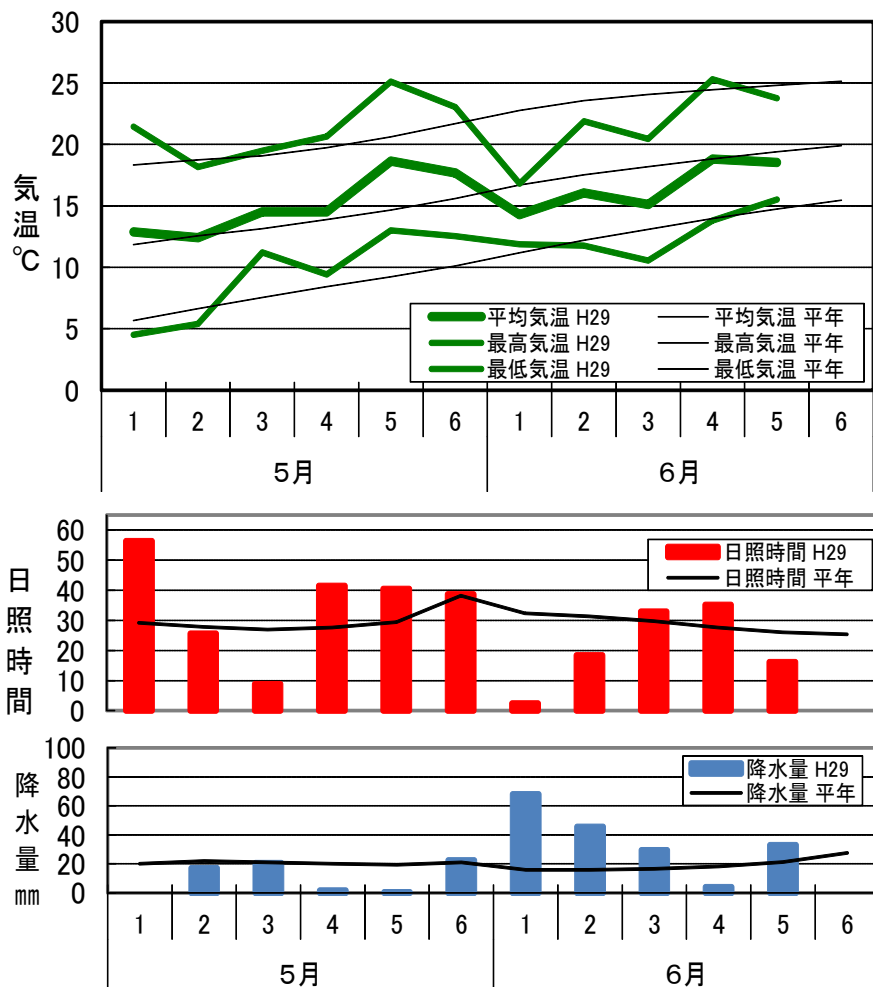


図 気象経過図（アメダス鷹巣）

## 2 今後の水管理

### 【中干しによる弱勢茎の抑制】

- 目標穂数と同数の茎数（あきたこまち70株植で株20本程度、60株植で株25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。
- 本年は、茎数のほ場間差が大きいことから、各ほ場の生育状況を確認して的確な中干しにより弱勢茎を抑制し、有効茎の充実を図ります。
- 中干し期間は7～10日間程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡のつく程度とします。終了後は間断かん水により土壌を酸化的に保ち、根の伸長を促進します。

### 【カドミウム吸収抑制対策】

- 出穂前後各3週間（平年で7月15日～8月25日）は、水田に常時水を張り、田面を空気に触れさせないようにします。
- 長期間の湛水管理に備えるため、中干しは早めにしっかりと行います。
- ぬかりやすく秋作業が大変な水田では、溝掘りを実施します。

## 3 主要病害虫の防除対策

▼飼料用米も主食用米と同様に、病害虫防除を行ってください▼

### 【いもち病】

- 補植用余り苗は葉いもちの強力な伝染源になります。水田から畦畔に移動するだけでは防除対策にならないので、泥の中に埋めるなどして、完全に処分してください。
- 県北部は、6月21日までにいもち病の感染に好適な気象は観測されていませんが、6月21日には梅雨入りしたと見られていることから、ほ場の見回りを十分注意して行い、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を散布してください。
- これまでに葉いもち防除を実施していない場合は、直ちにオリゼメート粒剤を2kg/10a散布してください。

#### ◆ラブサイド剤の使用回数に注意！

ラブサイド剤（ブラシン剤等含む）の成分である「フサライド」の総使用回数は3回以内です。農薬は使用のつど帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

### 【斑点米カメムシ類】

- 主要加害種であるアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメは、休耕田や畦畔等のイネ科雑草で増殖し、これらが水田に侵入して加害します。
- 出穂する10～15日前までに、畦畔や休耕田、雑草地を対象に、地域でまとまって草刈りを徹底して行い、斑点米カメムシ類の生息地における密度低下に努めます。
- アカスジカスミカメは、水田内にカヤツリグサ科（ホタルイなど）やノビエが多発していると、その雑草の穂に産卵・増殖します。水稻除草剤を適切に使用し、水田内の雑草防除を徹底しましょう。

## 4 中・後期除草剤の適正な使用

- 中・後期除草剤の使用にあたっては、雑草の草種や生育程度に応じて適切な剤を選択してください。散布時期や散布時の水管理は、剤によって異なるのでラベルをよく読んで適正に使用してください。

問い合わせはJ A、または農業振興普及課まで  
HPは「北秋田 コメ通信」で [検索](#) ～次回発行は7月上旬予定～